

新国立劇場 2018/2019 シーズンオペラ

リヒャルト・ワーグナー

# タンホイザー

## Tannhäuser

2019年1月27日(日)~2月9日(土)

会場:新国立劇場オペラパレス 2018年9月23日(日・祝)発売



新国立劇場『タンホイザー』2013年公演より 撮影:三枝近志

### 官能か？純愛か？ 愛の苦悩を壮大に描いたワーグナーの人気作を強力な歌手陣で

中世騎士伝説に題材を取った、ワーグナーの人気作。官能と精神、二つの愛の間で葛藤する騎士タンホイザーが、乙女エリーザベットの自己犠牲に救済される物語を描きます。誰しも聞き覚えのある有名な序曲、官能的なバレエ、巡礼の合唱、雄大壮麗な大行進曲など音楽的にも視覚的にもスペクタクルな見せ場が続き、エリーザベットの「歌の殿堂」、ヴォルフラムの「夕星の歌」、タンホイザーの「ローマ語り」など、聴きどころにも枚挙に暇がありません。

難役タンホイザーを歌うのはバイロイト音楽祭でも同役に出演し、ヘルデンテノールとして引く手あまたの活躍を見せるトルステン・ケール。ヴォルフラム役は、端正な歌い口が魅力のバリトン、ローマン・トレーケル、エリーザベットは、ワーグナー・ソプラノとして頭角を現しているリエネ・キンチャ。指揮には、世界の一流歌劇場で活躍するベテラン、アッシャー・フィッシュを迎え、強力な布陣で上演します。

&lt;資料・写真のご請求、ご取材のお問い合わせ&gt;

新国立劇場 制作部オペラ 広報担当 高梨木綿子

Tel:03-5352-5733/Fax:03-5352-5709/E-Mail: takanashi\_y2525@nntt.jac.go.jp

## 官能か？純愛か？ 愛の苦悩を壮大に描いたワーグナーの人気作

中世のタンホイザー伝説とヴァルトブルクの歌合戦伝説に題材を取った、ワーグナー中期の人気作。官能の愛と精神的な愛の間で揺れる騎士タンホイザーの苦闘と救済を描き、単独で演奏されることも多い有名な序曲、愛欲の世界を表す官能的なバレエ、敬虔な調べを奏でる巡礼の合唱、雄大壮麗な大行進曲、高らかな歌合戦の場など、オペラならではのスペクタクルの詰まった祝祭的作品であり、ワーグナーの中でも広く人気を獲得している作品です。エリーザベトの「歌の殿堂」、ヴォルフラムの「タ星の歌」、タンホイザーの「ローマ語り」など、歌手の力量を存分に味わえる聴きどころにも枚挙に暇がありません。新国立劇場では開場 10 周年記念シーズンである 2007/2008 シーズンの開幕作品として新制作上演、幻想と現実を効果的に行き来する美しい舞台でワーグナーの世界を堪能できると好評を博したプロダクションです。

## ワーグナー演奏の強力なスペシャリストが集結

難役タンホイザーを歌うのはバイロイト音楽祭でも同役に出演し、ヘルデンテノールとして引く手あまたの活躍を見せるトルステン・ケール。新国立劇場には大きな話題となった『死の都』パウル(2014 年)以来の待望の登場です。ヴォルフラム役は、美声と精緻な歌唱が魅力のバリトン、ローマン・トレーケル。やはりバイロイト音楽祭でも同役に出演しています。エリーザベトは、ワーグナー・ソプラノとして頭角を現しているリエネ・キンチャ。指揮には、メトロポリタン歌劇場など世界の一流歌劇場で活躍するベテラン、アッシャー・フィッシュを迎えます。最高峰の出演者が揃う強力な布陣による『タンホイザー』には、オペラファンからの大きな期待が集まっています。

## <「タンホイザー」あらすじ>

### 【第1幕】

中世のドイツ。騎士タンホイザーは、禁断の地ヴェーヌスベルクで愛欲の女神ヴェーヌスの虜となっていた。やがてこの歓楽の日々にも飽き、引き止めようとする女神の誘惑を振り切って人間世界に戻る。通りかかった巡礼一行の歌声に心を動かされタンホイザーは贖罪を誓う。そこで狩りに向かうかつての仲間に出会い、「エリーザベトのもとにとどまれ」の一言でヴァルトブルク城へ共に帰って行く。

### 【第2幕】

ヴァルトブルク城、歌の殿堂の大広間でタンホイザーはエリーザベトとの再会を喜び、歌合戦に参加することとなる。領主ヘルマンからの歌合戦の課題は「愛の本質」を明らかにすること。かつての同僚ヴォルフラムは愛を清らかな“奇跡の泉”にたとえ、他の騎士たちも精神的な愛を讃える歌を歌う。タンホイザーはこれに反論し、愛の本質は官能の愛であると〈ヴェーヌス賛歌〉を歌い上げたため、ヴェーヌスベルクにいたことが人々に露見してしまう。騎士たちはタンホイザーを殺そうとするが、エリーザベトは「信仰の勇気が、この人にも与えられますように」と願う。このとりなしによって領主ヘルマンは、タンホイザーにローマ法王のもとへ贖罪の巡礼に出よう命じるのだった。

### 【第3幕】

エリーザベトはタンホイザーの救済を祈っているが、ローマからの巡礼の中に彼の姿はない。エリーザベトは自らの命と引き換えにタンホイザーの救済を聖母に願う。そこに現れたタンホイザーは、ローマで自分だけ許しを与えられなかった様子を語る。自暴自棄になったタンホイザーはヴェーヌスベルクへの誘惑に今一度身を任せようとするが、エリーザベトの死によってその魂は救済される。「エリーザベトよ、わがために祈れ」と叫んで息絶えるタンホイザーに、神の恩寵をたたえる合唱が響き注ぐ。

## <主要キャスト・スタッフプロフィール>

### 【指揮】アッシャー・フィッシュ

Conductor : Asher FISCH

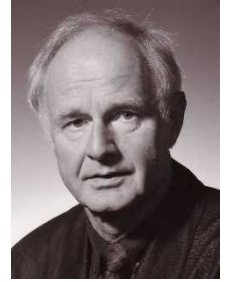
イスラエル生まれ。ダニエル・バレンボイムのアシスタントとしてキャリアをスタートし、ベルリン州立歌劇場でカペルマイスターを務めた。オペラ、コンサートの両方で活躍し、ロマン派、および後期ロマン派の作品、特にワーグナー、ブラームス、リヒャルト・シュトラウス、ヴェルディを得意とするが、グルックから現代作品まで幅広いレパートリーを誇る。ウィーン・フォルクスオーパー音楽監督(1995~2000)、ニュー・イスラエル・オペラ音楽監督(98~08年)、シアトル・オペラ首席客演指揮者(07~13年)などを歴任、14年より西オーストラリア交響楽団の首席指揮者およびアーティスティック・アドヴァイザーを務めている。このほか、ウィーン国立歌劇場、ミラノ・スカラ座、パリ・オペラ座、英国ロイヤルオペラ、ライブツィヒ歌劇場などにたびたび客演、特にバイエルン州立歌劇場との関係が深い。18/19シーズンはバイエルン州立歌劇場「さまよえるオランダ人」、ザクセン州立歌劇場「アラベッタ」、マドリッド王立歌劇場「カプリッチョ」などを指揮する予定。コンサートでもベルリン・フィル、ミュンヘン・フィル、ロンドン響、フランス国立管、ボストン響、シカゴ響、クリーヴランド管などと共演しており、来日も多い。新国立劇場では 2000年『ドン・ジョヴァンニ』以来の登場となる。



**【演出】ハンス＝ペーター・レーマン**

Production : Hans-Peter LEHMANN

ドイツ・カッセル生まれ。デトモルトで音楽を、ベルリンで美術史と演劇学を学ぶ。1958年ベルリン州立歌劇場でK.エーベルトの助手を、60年から73年までバイロイト音楽祭でヴィーラント・ワーグナー及びヴォルフガング・ワーグナーの助手を務める。80年より2001年まで、ハノーファー州立歌劇場総監督を務め『ニュルンベルクのマイスタージンガー』『トスカ』『アイダ』『ヴォツェック』など数多くの作品を手がける。01年よりフリーの演出家として活躍し、世界各地のオペラハウスやフェスティバルで作品を発表している。今までに『ラインの黄金』『ワルキューレ』『トリスタンとイゾルデ』『リゴレット』『魔笛』『仮面舞踏会』などを演出した。新国立劇場では02年『ナクソス島のアリアドネ』、04年『エレクトラ』に続いて、07年『タンホイザー』が3作目となった。

**【領主ヘルマン】妻屋秀和**

Hermann : TSUMAYA Hidekazu

東京藝術大学卒業、同大学大学院オペラ科修了。1994～2001年ライブツィヒ歌劇場、02年～11年ワイマールのドイツ国民劇場専属歌手。これまでにベルリン・ドイツ・オペラ、ベルリン州立歌劇場、ライン・ドイツ・オペラ、スコティッシュ・オペラなどに出演。欧州、日本でモーツァルト、ロッシニ、ヴェルディ、プッチーニ、ワーグナー、R.シュトラウス等のオペラの主要な役を80役以上演じており、新国立劇場では『ラ・ボエーム』コッリーネ、『ドン・ジョヴァンニ』騎士長、『セビリアの理髪師』ドン・バジリオ、『アイダ』ランフィス、『ナブッコ』ベルの祭司長、『夜叉ヶ池』鉦蔵、『リゴレット』スparaフチーレ、『ヴォツェック』医者、『アラベッラ』ヴァルトナー伯爵、『ドン・カルロ』宗教裁判長、『マノン・レスコー』ジェロント、『ばらの騎士』警部、『ラインの黄金』ファフナー、ファーゾルト、『ファルススタッフ』ピストーラ、『魔笛』ザラストロ、『ルチア』ライモンド、『アイダ』ランフィス、『フィデリオ』ロッコ、『ファルススタッフ』ピストーラなど出演多数。2018/19シーズンは『ドン・ジョヴァンニ』騎士長、『トウーランドット』ティムールにも出演予定。二期会会員。

**【タンホイザー】トルステン・ケール**

Tannhäuser : Torsten KERL

ドイツ生まれ。首席オーボエ奏者としてオーケストラで活躍後、歌手に転向し瞬く間に成功を収めた。現代最高のヘルデンテノールの一人として、世界中で活躍している。主なレパートリーにはパルジファル、ローエングリン、タンホイザー、トリスタン、ローゲ、ジークムント、ジークフリートのほか、『魔弾の射手』マックス、『死の都』パウル、『低地』ペドロ、『影のない女』皇帝、『カルメン』ドン・ホセ、『サムソンとデリラ』サムソン、『オテロ』タイトルロール、『ボリス・ゴドゥノフ』グリゴリーなどがある。ウィーン国立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、バイエルン州立歌劇場、メトロポリタン歌劇場、サンフランシスコ・オペラ、英国ロイヤルオペラ、ミラノ・スカラ座、ネザーランド・オペラ、パルセロナ・リセウ大劇場、パリ・オペラ座などの劇場に出演。『タンホイザー』タイトルロールはバイロイト音楽祭でも歌っている。このほかウィーン・フィル、ロンドン・フィル、ロンドン響、ベルリン・フィル、アムステルダム・コンセルトヘボウ管、フランス国立管、ドレスデン・シュターツカペレなどに定期的に客演している。新国立劇場では2010年『カルメン』ドン・ホセ、14年『死の都』パウルに出演。

**【ヴォルフラム】ローマン・トレケル**

Wolfram von Eschenbach : Roman TREKEL

ドイツ生まれ。ベルリンで学んだ後、ベルリン州立歌劇場でキャリアをスタート、以来同劇場の中心的な歌手であり続けている。レパートリーには『タンホイザー』ヴォルフラム、『ドン・カルロ』ロドリゴ、『フィガロの結婚』アルマヴィーヴァ伯爵、『コジ・ファン・トゥッテ』ドン・アルフォンソ、『ニュルンベルクのマイスタージンガー』ベックメッサー、『トリスタンとイゾルデ』クルヴェナール、『パルジファル』アムフォルタス、『ファウスト博士』『ヴォツェック』タイトルロールなどがある。ベルリン州立歌劇場以外では、ミラノ・スカラ座、英国ロイヤルオペラ、ザクセン州立歌劇場、ハンブルク州立歌劇場、バイエルン州立歌劇場、ネザーランド・オペラ、チューリヒ歌劇場、ウィーン国立歌劇場などに出演。コンサート、リートの分野でも活躍し、ベルリン・フィル、シカゴ響、クリーヴランド管、イスラエル・フィルなどに客演し、クラウディオ・アバド、ダニエル・バレンボイム、ファビオ・ルイーゼ、ズービン・メータ、ケント・ナガノ、サイモン・ラトル、クリスティアン・ティーレマンなどと共演している。CD、DVDも数多い。新国立劇場では2004年『神々の黄昏』グンター、11年『コジ・ファン・トゥッテ』ドン・アルフォンソに続いて3回目の登場。

**【ヴァルター】鈴木 准**

Walther von der Vogelweide : SUZUKI Jun

東京藝術大学大学院にて音楽博士号取得。松田トシ賞、アカンサス音楽賞、三菱地所賞受賞。2010年度に同大学の特別研究員として渡英。これまでに『ドン・ジョヴァンニ』ドン・オッターヴィオ、『魔笛』タミーノ、『後宮からの逃走』ベルモンテ、一柳慧『愛の白夜』ヨニスなどに出演したほか、ブリテン『カーリュウ・リヴァー』狂女役をロンドン、オーフォードで演じ好評を得た。14年にはびわ湖ホール『死の都』にパウル役で出演し絶賛される。15年には神奈川県民ホール『金閣寺』柏木に出演。新国立劇場では『魔笛』タミーノ、『夕鶴』与ひょう、『沈黙』モキチ、『タンホイザー』ハインリヒ、『鹿鳴館』久雄、『パルジファル』小姓、『フィデリオ』ジャキーノ、演奏会形式『コジ・ファン・トゥッテ』フェルランドに出演。二期会会員。





**【ビーテロルフ】萩原 潤****Biterolf : HAGIWARA Jun**

東京藝術大学卒業、同大学大学院修了。二期会オペラスタジオ41期修了。文化庁派遣芸術家在外研修員として渡独。ベルリン・ハンス・アイスラー音楽大学大学院を最優秀の成績で修了。第14回五島記念文化賞オペラ新人賞受賞。これまでに『ニュルンベルクのマイスタージンガー』ベックメッサー、『フィガロの結婚』アルマヴィーヴァ伯爵、『こうもり』アイゼンシュタインなどに出演。新国立劇場では『トゥーランドット』ピン、『アラベッタ』ドミニク伯爵、『アンドレア・シェニエ』フレヴィル、『ラ・ボエーム』ショナール、『ローエングリン』王の伝令、『魔笛』パパゲーノ、『ヴォツェック』第二の徒弟職人、『イエヌーファ』粉屋の親方、『松風』須磨の浦人、オペラ鑑賞教室・関西公演『フィガロの結婚』フィガロなどに出演。二期会会員。

**【エリーザベト】リエネ・キンチャ****Elisabeth : Liene KINČA**

ラトヴィア生まれ。ラトヴィア音楽院で学ぶ。2005年ラトヴィア国立歌劇場に『イエヌーファ』カロルカでデビュー。その後『仮面舞踏会』アメーリア、『ルサルカ』外国の公女、『修道女アンジェリカ』タイトルロール、『外套』ジョルジュエッタ、『アイーダ』『トスカ』タイトルロール、『スペードの女王』リーザ、『ワルキューレ』ジークリンデ、『神々の黄昏』グートルーネ、第三のノルンなどに出演、モスクワおよび香港へのツアーにも参加した。12年より欧州各地に活躍の場を広げ、フランダース・オペラ『エレクトラ』クリソテミス、『タンホイザー』エリーザベト、『さまよえるオランダ人』ゼンタ、スロヴァキア国立歌劇場『アイーダ』タイトルロール、フライブルク歌劇場『スペードの女王』リーザ、『シチリアの晩鐘』エレナ、『イル・トロヴァトーレ』レオノーラ、オーバーアーマガウ受難劇劇場『さまよえるオランダ人』ゼンタ、アン・デア・ウィーン劇場『リング・トリロジー』ジークリンデ及びグートルーネなどに出演している。『タンホイザー』エリーザベトはフランダース・オペラのほか、フェニーチェ歌劇場、ベルン歌劇場でも大成功を収めた役である。新国立劇場初登場。

**【ヴェーヌス】アレクサンドラ・ペーターザマー****Venus : Alexandra PETERSAMER**

ドイツ生まれ。ミュンヘン国立音楽大学にて学ぶ。ベルリンVDMK全国合唱コンクールおよび国際プフィッツナーコンクールで第1位を獲得のほかベルヴェデーレ国際声楽コンクールで特別賞を受賞した。1994～2000年にはデッサウ・ザクセンアンハルト劇場、04～08年にはミュンヘン・ゲルトナープラッツ劇場のアンサンブルに所属。06年にはパイロイト音楽祭に『ワルキューレ』ロスヴァイセでデビュー。翌07年には新日本フィル『ローエングリン』でオルトルート役デビューし、同役は08年にはライプツィヒ歌劇場、11年にはバイエルン州立歌劇場でも歌っている。『タンホイザー』ヴェーヌスも得意とし、ニュルンベルク歌劇場、ザクセン州立歌劇場などで成功を収めている。コンサートでも活躍し、ウィーン楽友協会、アムステルダム・コンセルトヘボウ、ノイシュヴァンシュタイン城フェスティバル・コンサート、ザルツブルク音楽祭などに出演。共演した指揮者にはアラン・ギルバート、ベルトランド・ビリー、ジェームズ・コンロン、ヴァレリー・ゲルギエフ、クリスティアン・ティーレマン、コリン・デイヴィス、ケント・ナガノ、ペーター・シュナイダーらがいる。新国立劇場初登場。



新国立劇場 2018/2019シーズン

リヒャルト・ワーグナー  
タンホイザー  
Richard Wagner / Tannhäuser  
全3幕〈ドイツ語上演／字幕付〉

【公演日程】2019年1月27日(日)14:00／30日(水)14:00／  
2月2日(土)14:00／6日(水)17:30／9日(土)14:00

【会場】新国立劇場 オペラパレス

【チケット料金】S:27,000円・A:21,600円・B:15,120円・C:8,640円・D:5,400円・Z:1,620円

【前売開始】2018年9月23日(日・祝)

指揮	アッシャー・フィッシュ	領主ヘルマン	妻屋秀和
Conductor	Asher FISCH	Hermann	TSUMAYA Hidekazu
演出	ハンス＝ペーター・レーマン	タンホイザー	トルステン・ケール
Production	Hans-Peter LEHMANN	Tannhäuser	Torsten KERL
美術・衣裳	オラフ・ツオンベック	ヴォルフラム	ローマン・トレケル
Set and Costume Design	Olaf ZOMBECK	Wolfram von Eschenbach	Roman TREKEL
照明	立田雄士	ヴァルター	鈴木 准
Lighting Design	TATSUTA Yuji	Walther von der Vogelweide	SUZUKI Jun
振付	メメット・バルカン	ビーテロルフ	萩原 潤
Choreographer	Mehmet BALKAN	Biterolf	HAGIWARA Jun
再演演出	澤田康子	ハインリヒ	与儀 巧
Revival Director	SAWADA Yasuko	Heinrich der Schreiber	YOGI Takumi
舞台監督	高橋尚史	ラインマル	大塚博章
Stage Manager	TAKAHASHI Naohito	Reinmar von Zweter	OTSUKA Hiroaki
		エリーザベト	リエネ・キンチャ
		Elisabeth	Liene KINČA
		ヴェーヌス	アレクサンドラ・ペーターザマー
		Venus	Alexandra PETERSAMER
		牧童	吉原圭子
		Ein junger Hirt	YOSHIHARA Keiko

合唱指揮	三澤洋史
Chorus Master	MISAWA Hirofumi
合唱	新国立劇場合唱団
Chorus	New National Theatre Chorus
バレエ	新国立劇場バレエ団
Ballet	The National Ballet of Japan
管弦楽	東京交響楽団
Orchestra	Tokyo Symphony Orchestra

芸術監督 ..... 大野和士  
Artistic Director ..... ONO Kazushi

公演情報 WEB サイト <https://www.nntt.jac.go.jp/opera/>

【チケットのご予約・お問い合わせ】新国立劇場ボックスオフィス TEL:03-5352-9999 (10:00~18:00)

新国立劇場Webボックスオフィス <http://pia.jp/nntt/>

【チケット取り扱い】チケットぴあ、イープラス、ローソンチケットほか

- \* Z席1,620円:公演当日朝10時より、新国立劇場Webボックスオフィスほかで販売。1人1枚。電話予約不可。
- \* 当日学生割引(50%)、ジュニア割引、高齢者割引、障害者割引、学生割引など各種割引あり。\*未就学児入場不可。

★宣材のご提供について…本演目はレパートリー(再演)公演です。過去の上演の記録写真を宣材としてご提供いたします。



【1】



【2】



【3】



【4】



【5】



【6】



【7】



【8】



【9】



【10】